

2024年 7月 7日 ≪ 誕生祝福式 ≫

主 日 礼 拝

①8時半 ②10時半 ③夜7時

司 会

②石井 秀人兄

奏 楽

祈 禱

②白川 達男兄

賛 美

聖歌503番「主のみ手にたよる日は」

～その日全世界が～

詩篇23篇

聖書朗読

使徒行伝8章25～31節

特別賛美

プレミアム・クワイア

メッセージ

「駆け足の伝道者ピリポ」

石井 潤 牧師

献 金

聖歌634番「世の終わりのラッパ」

賛 美

～ 主は今生きておられる ～

祝 禱

お知らせ

〔司会者〕

賛 美

～ 見つめ続けます ～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆
《今週のお知らせ》

☆本日も礼拝の恵みを感謝します。午後は聖書の学び会（ヘブル12/小山姉）。

★今週の祈り会：①明朝6時、②木曜午前10時半/夜7時半、③土曜夜8時。

☆来週日曜礼拝では聖餐式(司：白川兄/祈：小山姉)。午後は執事会があります。

◎今年も半年守られたことを感謝して上半期感謝献金をお捧げ致しましょう！

☆☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [7/7-14] ☆

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
聖書箇所	ネヘミヤ 13/ エステル 1-2	3-6	7-10	ヨハネ 1-2	3-4	5-6	7-8	9-10
チェック	〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

「駆け足の伝道者ピリポ」

～主の働きに忠実に歩む～

「さて、主の天使はフィリポに、『ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザに下る道を行け』と言った。そこは寂しい道である。フィリポは出かけて行った。折から、エチオピアの女王カンダケの高官で、女王の全財産を管理していたエチオピア人の宦官が、エルサレムに礼拝に来て、帰る途中であった。彼は、馬車に乗って預言者イザヤの書を朗読していた。すると、霊がフィリポに、『追いかけて、あの馬車に寄り添って行け』と言った。…。彼らが氷の中からは上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、喜びに溢れて旅を続けた。」
使徒行伝8章26—29、39節 [協会訳]

大迫害によって散らされたエルサレム教会のクリスチャンたちは、主にある喜びに溢れて出て行きました。もちろん命懸けですが、それ以上に主によって救われた喜び、聖霊によって満たされた喜びがありました。その証拠に、教会に仕える信徒リーダーの一人であるピリポの動きは素晴らしいものでした。もちろん、まず、ステパノもしていたように、悪霊によって縛られた人々を、神の霊によって、主イエス様の御名の權威によって、解放していきました。そして、病に縛られた人々も、解放し、癒やしていきました。それらは、霊の解放のミニストリーといってもいいと思います。その結果、イエス様の御名が崇められ、神の国の支配が各地で建て上げられていきました。エルサレムにとどまっていたならば、決して出会うことができなかった人々にどんどん届いていきました。サマリヤ人の地方は、ユダヤ人からは軽蔑され、無視されてきた人々、そこに主は救いを届けるためにピリポを遣わしました。そして、サマリヤ地方に神の国が拡大しているという報告がエルサレムの使徒たちに伝えられて、解放されたサマリヤの地に神の霊である聖霊様を歓迎することを通して、悪魔が入り込むスキを与えないようにしました。これで、サマリヤ地方は神の国となりました。「エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土」というイエス様が使徒1章で語られた通りに主の御業は進んでいきました。ピリポは12弟子の一人ではありませんでした。その後には弟子になった人物です。新しい世代です。これからの教会を荷う人物でした。ピリポは、人々が主を信じて、主に従うことを導く準備段階の働きをする伝道者でした。まさに、主の道を伝える主の器です。そして、その後、使徒たちが来て、直接手を置いて祈ることで、イエス様から直接与えられる聖霊の満たしを与えたのです。これは、教会として、使徒としての權威でもあります。ピリポはその準備をするということに使命を与えられていたのです。まるで、バプテスマのヨハネのようです。主の道が開かれる準備をした伝道者でした。

パウロも後に言いました。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし成長させて下さるのは、神である」と。誰か一人が働きを完璧に成し遂げてしまったら、その人が高慢になるかもしれませんが、最終的には人ではなく、神様の働きであるということを意識しないといけないのだと思います。ただ、主から与えられた使命に忠実でありさえすれば良いのだということです。